

ないことも影響していると考えられるが、企業の求める人材がポストドクターでは得られない可能性や、採用情報が広く認知されていないなど人材のマッチングがうまく機能していない可能性も考えられる。また、女性研究開発者を採用した企業の割合は 26.1%となっている。ただし、研究開発者を採用した企業のなかでの、その割合は 56.9%である。

表 4-9. 研究開発者を採用した企業の割合

|                        | 回答した企業<br>に占める割合<br>(N=1170) | 採用した企業<br>に占める割合<br>(N=536) |
|------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 研究開発者(新卒・中途を問わず)を採用    | 45.8%                        | 100.0%                      |
| うち、学士号取得者(最終学歴)を採用     | 27.1%                        | 59.1%                       |
| うち、修士号取得者(同上)を採用       | 34.2%                        | 74.6%                       |
| うち、博士課程修了者(同上)を採用      | 10.3%                        | 22.4%                       |
| うち、採用時点でポストドクターだった者を採用 | 1.8%                         | 3.9%                        |
| うち、女性研究開発者を採用          | 26.1%                        | 56.9%                       |

注:採用した研究開発者数、及びその内訳項目全てに回答した企業を集計対象とした。

表 4-10 は、2016 年度に採用した研究開発者総数と、採用者の学歴による採用数の違いについて、業種別に平均値と中央値を示したものである。

まず、全体としては、研究開発者の採用者数は 1 社当たり平均して 5.7 人、中央値は 0.0 人である。よって、回答企業のうち半数の企業は 2016 年度に研究開発者を 1 人も採用していないことになる。前年度調査では 1 社当たり平均 4.6 人、中央値は 0.0 人となっており、研究開発者の採用者数の平均値が若干、増加した。次に、平均値でみた場合、学士号取得者の採用者数は 1.5 人、修士号取得者は 3.5 人、博士課程修了者は 0.3 人である。したがって、民間企業において最も需要の多い研究開発者は、修士号取得者であるといえる。

研究開発者の 1 社当たりの平均採用者数が多い業種としては自動車・同付属品製造業(22.6 人)、総合化学工業(9.3 人)、医薬品製造業(9.0 人)が挙げられる。なお、採用者数は極めて少ないものの、相対的に博士課程修了者の採用に積極的な業種は、医薬品製造業(2.0 人)、総合化学工業(1.0 人)、学術・開発研究機関(1.0 人)であった。

これを資本金階級別にみると(表 4-11)、資本金が大きいほど採用する研究開発者数が多く、資本金階級が 100 億円以上の場合には平均で 20.9 人、中央値で 7.5 人採用している。学歴別にみると、修士号取得者に関して、資本金 100 億円以上の企業では、平均値が 14.2 人、中央値が 5.0 人であり、他の資本金階級、学歴にはみられない大きな値となっている。